

趣旨

今から遡ること約400年、寛永2年(1625年)5月15日、弘前藩第2代藩主津軽信枚は、津軽から江戸への廻船就航を許可する連署奉書を幕府年寄衆である土井利勝と坂井忠世より拝領した。このことが港町青森の出発点であり、「開港の契機」と言われている。また、寛永3年(1626年)4月6日、津軽信枚から森山弥七郎へ黒印状が与えられ、青森市のまちづくりが開始されている。

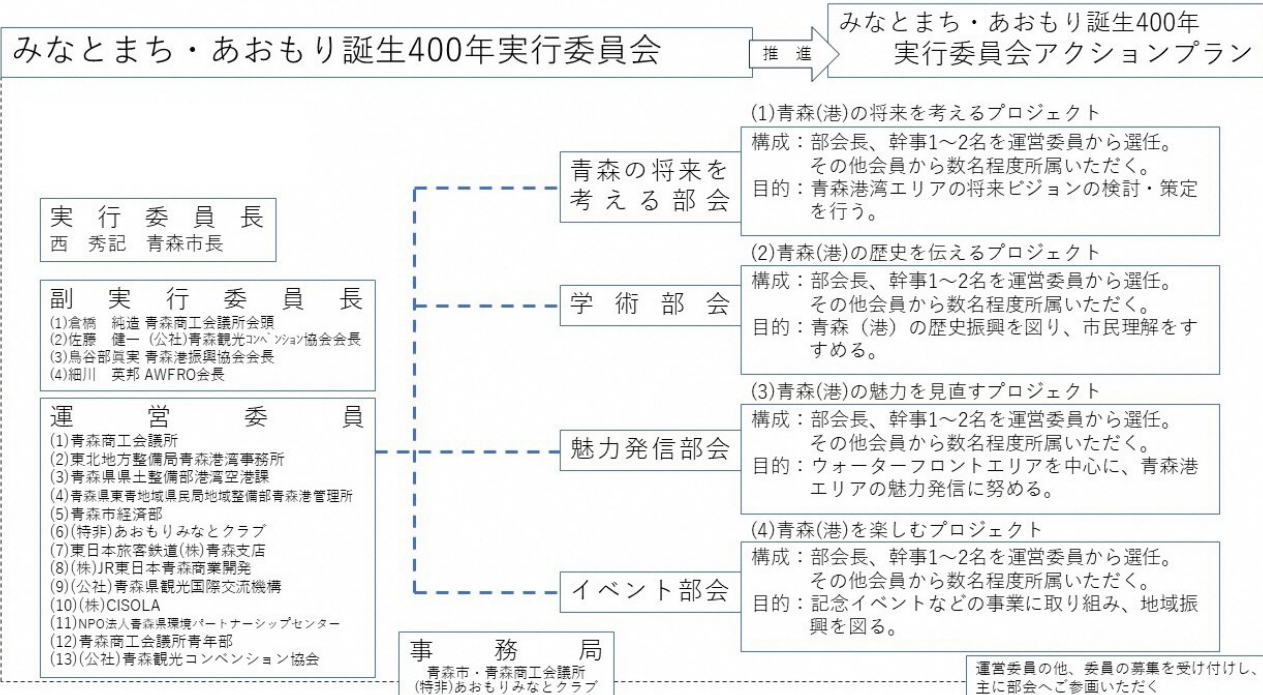
また、400年前の開港以降、近代では明治41年から昭和63年まで運行していた青函連絡船をはじめ、港の力をもって成長したまちであり、近年では、青函連絡船が乗り入れていた青森駅の建替え、「あおり駅前ビーチ」、「洋上風力基地港の検討」など、むつ湾・青森港を中核にまちの新たな経済活動の誘因や、環境を意識した取組など多様な活動が展開されている。

2025年、2026年にそれぞれ訪れる「青森開港の契機から400年」と「青森まちづくり400年」に向け、実行委員会では、多様な団体と連携しながら、市民が育んできた文化・伝統・歴史を継承するとともに、港湾を中心としたまちづくりの意識啓発、賑わい創出に取り組み、記念プロジェクトを行っていくための組織作りを行い、「みなとまち・あおり誕生400年」に備えていくこととしている。



青森港(提供：東青地域県民局地域整備部青森港管理所)

組織



プロジェクト

(1) 青森(港)の将来を考えるプロジェクト

青森港湾エリアの将来ビジョンの検討・策定を行う。

開港400年を機に、港に支え続けられてきた青森の港湾エリアがこれからどのようなエリアになっていくか、環境保全や時代に沿った産業振興などの視点に基づく50年後のエリアビジョン策定を進め、青森の未来について市民・県民がわかりあえる街づくりを考える。

(2) 青森(港)の歴史を伝えるプロジェクト

青森(港)の歴史振興を図り、市民理解をすすめる。

青森は、港湾機能の発展と共に400年以上経済が支えられてきたことについて、歴史的資産の少なさ等に起因し、市民・県民からの認知度が低い。「青森の歴史」から地域愛や地域が発展した由来を知り、港湾の重要性を学ぶ。

(3) 青森(港)の魅力を見直すプロジェクト

ウォーターフロントエリアを中心に、青森港エリアの魅力発信に努める。

青森ウォーターフロントエリアを中心に立地している各コンテンツ(八甲田丸、青森県観光物産館アスパム、エーファクトリー等々)の魅力発信について、本事業を契機にエリアとして一体的に一層取り組む。

(4) 青森(港)を楽しむプロジェクト

記念イベントなどの事業に取り組み、地域振興を図る。

地域の観光業や商業活動を促進し、観光プロモーション、地域特産品の販売促進、イベントの開催などから経済的な活性化を図る。

スケジュール観

2022 準備会設立

2023 実行委員会設立

2024 プレ期間

(八甲田丸60周年記念事業支援etc.)

2025

記念事業実施期間

フェーズ1 青森開港400年

2026

フェーズ2 青森まちづくり400年

「みなとまち・あおり誕生400年」準備会では、実行委員会設立を目的に関係団体の認識共有のためのパンフレット作成やイベント等でのブース設置・PRなどをこれまで実施。

2025年、2026年の各フェーズにおいて、記念事業を企画。主な記念日にとらわれず、年度を通した企画運営や関連団体との連携を行う。

主な記念日
 フェーズ1:令和7年5月15日(木)
 フェーズ2:令和8年4月6日(月)



画像：各種団体が青森港周辺で催す様々なイベント